



Rotary Club of KOBE EAST

The Rotary club of Kobe East Bulletin

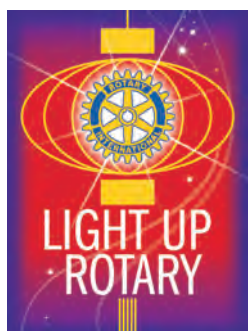
神戸東ロータリークラブ会報

No.377 2014-2015 No3

表紙絵：太原 震也元会員

会長／乙守 典厚 副会長／吉井 正幸 幹事／澤田 正樹 雑誌会報委員長／田中 義明 副委員長／弘田 芳裕
 例会場：ホテルオークラ神戸 例会曜日：毎週火曜日

クラブ会長テーマ 「希望を抱いて 輝きを！」



RI President

霍英志

ゲイリー C.K. ホァン
 2014-2015年度国際ロータリー会長





2014 - 2015年度 神戸東ロータリークラブ
第61代会長 乙守典厚

2014-2015年度 神戸東ロータリークラブ第61代会長を退任するにあたり挨拶申し上げます。前年度は、創立60周年という大きな節目の年であり我クラブの歴史と伝統を、格調高く示していただきました。そして61周年目の今年度は、今一度過去を見直し、現在を見つめ、将来に目を向け、魅力のあるクラブにすることを目標に、テーマを「希望を抱いて輝きを！」とし、いつも希望を持って進んで行くことに努めて参りました。「神戸東クラブ風」の、他のクラブには無い魅力あるクラブ作り、また、新しい理事や正副委員長の方々を、クラブ全体で支えていくと共に、“若い力” “新しい力”を育てていけるような仕組み作りをして参りました。

特に「会員増強」と、それに伴う「多様性」についても、新たな考え方で取り組みました。すべてに「選択と集中」を基本として、各委員会には、成果を実感できるような事業をしていただきました。退任するにあたり、心に一番残ることは、皆様方に様々なご協力ご支援を得て、この1年を終えることが出来たことです。残念なことは、7月のスタート直後に、ロータリアンとしてまた、我クラブを愛し、最期まで神戸東クラブのメンバーとしてお亡くなりになった横山 滋会員を失ったことです。ご冥福をお祈りいたします。また、残念ながら退会されまし

た会員の皆さんのご健勝を心からご祈念申し上げます。

本年度三役の吉井副会長、澤田幹事には、この1年半ほど、語り尽くせないほどの協力と支援を賜りました。吉井副会長にはスタート前の理事・役員そして委員会構成で、私が持っていない情報を提供していただき、ご協力いただきました。また、吉井副会長の発案で、1週間の間に「ロータリーデー」と称した、3つの奉仕事業と2つの同好会等が開催されることからその1週間を「ロータリーウィーク」と名付けた、特別週間にしました。吉井副会長は、物静かではありますが、いつも奇抜な発想力と企画力で大変ご協力を賜りました。澤田幹事には、ロータリーのクラブ運営は言うまでもなく、私の体調管理までしていただきました。私は結構大雑把な感じで進めていますが、澤田幹事は、何事も冷静に判断し、論理的に進めていけます。また、私の至らぬことを一手に引き受けて、大変ご苦勞をお掛けしたと思っております。1年を振り返って、三役では一度も不愉快な思いをしたことがなく、素晴らしい副会長と幹事に恵まれたと思っております。

理事・役員会では、吉田（建美）理事には、様々な問題に接したときには、いつも良きアドバイスを頂きました。須藤理事には、昨年スタート前から、幹事の経験を活かした的確な指導を賜りました。正副会計を担当された岩野会員、田中（寿夫）会員には大変緊縮した財政にも前向きに取り組んでいただきました。会計監事の畑崎会員、三原会員には、緊縮財政での監査、よろしく申し上げます。

正副S.A.A.を担当された野々村会員、野田会員、植村孝一会員には、神戸東クラブらしい格調高い例会を毎回取り仕切っていただきました。また、ニコニコ箱の御奉仕にもご協力を賜り、ユーモラスな語りで例会を和ませていただきました。

出席委員会の正副委員長を担当された鎌田会員、藤井会員、そして委員の皆さんには、例会



の出席率向上への取り組みや、あらゆるロータリーの会合に出席することを奨励していただき、創立記念例会において、皆出席者の表彰をしていただきました。鎌田委員長には、前年度はロータリーやCLP等のアルコール付きの勉強会で、澤田会員、須藤会員と一緒に、夜遅くまでお付き合いをいただきました。

親睦活動委員会の正副委員長を担当された山崎会員、菅野会員、そして委員の皆さんには、新入会員の皆さんが我クラブに出来る限り早く馴染んでいただけるように、委員会内での親睦会を5回開催されたと聞いております。そして、会員同士の親睦にも様々な工夫を取り入れていただきました。菅野副委員長には、我クラブが担当いたしました市内3ロータリークラブの正副会長・幹事会では、神戸メリケンパークオリエンタルホテル最上階にあります個室ステーキハウスを設営していただきました。出席された皆さんは、大変美しい眺望とこだわりのインテリア、そして、特別な料理メニューにおどろいておられました。また、今晚今年度の締め括りとなります親睦会がございます。最後の最後までお世話になります。

家族委員会の正副委員長を担当された多田会員、今井会員、そして委員の皆さんには、会員と家族の方々の親睦及び懇親を深めるための家族会場の場を作っていただきました。秋には京都「美濃吉本店 竹茂楼」で開催されました、日帰り家族旅行第1部は、京都女子大学の西尾久美子教授に「京都 花街に学ぶ、おもてなしの仕組み」を講演していただき、花街の経営の仕組みを少し勉強させていただきました。第2部は、日本の和食が、ユネスコ無形文化遺産に登録されたことから、芸舞妓さんを交えて京都の伝統料理を楽しみました。12月の家族月間には、宝塚歌劇団の創立100周年にちなんで、元宝塚歌劇団を招いて、忘年家族会を開催いたしました。そして4月の創立記念例会家族会等、多田委員長のユニークな発想と、今井副委員長の飲料を交えた企画力、そして乗りに乗った委

員の皆さんとの協力により楽しい催しをしていただきました。また、京都日帰り家族旅行の前日には、打合せを兼ねた夕食会が開催され、祇園の花街に、知る人ぞ知るおしゃれで美味しいイタリアンのお店があることを知りました。

プログラム委員会の正副委員長を担当された樫野会員、野田会員、そして委員の皆さんには、樫野委員長の多才な人脈と経験豊富な野田副委員長のサポートにより1年間のプログラムを編成していただきました。上期には、元プロ野球選手でオリックスやメジャーリーグで活躍され、現在野球解説をされています田口 壮様を尾山会員のお世話でお招きしました。下期には、阪神淡路大震災から数えて20年目を迎えたことから、プログラム委員であり、その当時の我クラブの事情をよく知っておられる高嶋良平会員より、「神戸東ロータリークラブ震災20年を迎えて」という題目でお話をいただき、あの当時の事を思い出させていただきました。3月には、むつみ会との「合同新春会」を例会の中で開催し、四代目桂 福團治様より古典落語を拝聴いたしました。最終月の6月には、出席会員全員で「会員増強を考える」をテーマにバズセッション型式で討議していただきました。樫野委員長には、一番お忙しい時期にご協力をいただきました。そんなお忙しい中4月には、樫野委員長に良い風が吹きましたこと、心よりお喜び申し上げます。今後のご活躍をお祈りいたします。

週報委員会の正副委員長を担当された藤本会員、石川会員、そして委員の皆さん、毎週大変お疲れ様でした。我がクラブも、週報の原稿収集から編集・印刷・配布までの一連の流れが出来上がって来ているのでは、と思っております。また、石川副委員長には、海外に会社を設立という大変お忙しい中、ありがとうございました。

雑誌会報委員会の正副委員長を担当された田中（義明）会員、弘田会員、そして委員の皆さんには、3回の会報をお願いいたしました。田中委員長は「なにも出来んで委員会」と言って



いましたが、やはり委員長のリーダーシップでしょう。思い出に残るような写真の多い会報を作っていただきました。陰には石橋会員の大きな協力があつたのではと思います。

ロータリー情報委員会の正副委員長を担当された森本会員、松下会員、そして委員の皆さんには、ユニークな企画をされる森本委員長の発案で、ラウンドテーブル会では、「そこまで言って委員会」という趣旨通り、忌憚のない本音の話が出来たのでは、と思っております。会場のお世話をいただいた鮑会員には、毎回美味しい中華料理と年代物の紹興酒ありがとうございました。また、新入会員のインフォメーションでは松下副委員長よりロータリーの歴史からロータリーの全般についての説明をしていただきました。

会員増強委員会の正副委員長を担当された梅田会員、土城会員、そして委員の皆さんには、今ロータリーが最も重要な課題としています、会員増強に取り組んでいただきました。地区でも、また、日本のロータリークラブでも会員増強に大変頭を悩ませております。しかし、多大な努力と活動の結果、本年度は、7名の新しい会員を増やすことが出来ました。上村修司会員には、大変ご尽力を賜ったことを、土城会員からお聞きしています。ありがとうございます。また、会員増強の新たな試みとして、クラブ外の方々との交流会を開催し、ロータリークラブを理解し、且つ「神戸東風」のクラブスタイルを感じていただきました。

会員選考・職業分類委員会の正副委員長を担当された樽本会員、角田会員、そして委員の皆さんには、厳格なる審査をしていただき、7名の我クラブに相応しい会員を選考し、職業も分類していただきました。

ロータリー財団委員会の正副委員長を担当された中井会員、須藤会員、そして委員の皆さんには、世界相互理解と平和を達成しようとする国際ロータリーの活動を、財政面から支援する業務を行なっていただきました。また、中井委

員長には、「ロータリー財団と END POLIO NOW」という題目で卓話をしていただきました。特にポリオプラスにつきまして、私も「プラス」の意味を改めて知ることが出来ました。

職業奉仕委員会の正副委員長を担当された横山公一会員、大澤会員、そして委員の皆さんには、10月の職業奉仕月間に因んだ卓話ということで、日本総合研究所会長の野田一夫様をお招きいたしました。その時に野田様サイン入りの著書「わが反骨人生悔しかったら、歳を取れ！」をいただきました。その著書から「人脈は人生を変える」ことを学ばせて頂きました。また京都祇園の「一力亭」で開催された委員会、芸舞妓さんも良かったです。「忠臣蔵」の大石内蔵助の直筆の書状が今でも「一力亭」に保存してあるのには驚きました。また、職場訪問として株式会社バリュー・プランニングの井元会員の新社屋「新美脚研究所・おもてなし研究所」を見学させていただきました。

社会奉仕委員会の正副委員長を担当された吉田 茂会員、宮会員、そして委員の皆さんには、地区補助金事業、神戸市立青陽東養護学校におきましてロータリーデー第2弾としてのコンサート「心の扉を開くハーモニー」を開催いたしました。アカペラコーラスグループ「キューティーハニー」と神戸東クラブのコーラスの皆さんの活躍により大変盛況で、日頃音楽の鑑賞をする機会に恵まれない子供達に希望や夢を与えていただきました。恒例になっています、青陽東養護学校と友生支援学校の招待ボウリング大会では、子供達に1年で1番楽しい機会を与えていただき、成果を実感できるような社会奉仕活動が出来たと思っております。

国際奉仕委員会の正副委員長を担当された香山会員、井元会員、そして委員の皆さんには昨年7月のスタート前から海外のシスタークラブとの交流が始まりました。そして創立80周年を迎えるシンガポールロータリークラブの会長交代式典や晩餐会等に参加し、日本では味わえない経験をさせていただきました。村元会員に



は、連絡調整そして手配と大変お世話になりました。また、マリーナ・ベイ・サンズの最上階「スカイオン 57」での夕食会は、シンガポールロータリークラブ訪問の思い出の一つに残っております。

米山記念奨学委員会の正副委員長を担当された三戸岡会員、三野会員、そして、委員の皆さんには、奨学生に対する支援の為の寄付を募っていただきました。また、奨学生 斉 瑤さんに、山崎カウンセラーのご協力を得て奨学生支援、またお誕生会や送別会等、心のこもったお世話をしていただきました。私にも、帰国前に 斉 瑤さんから、「神戸東ロータリークラブの皆様には、日本に滞在中大変お世話になりました。中国にお越しの際はご連絡ください。私のご案内します。」という、お礼状をいただいております。

青少年奉仕委員会の正副委員長を担当された榊原会員、福原会員、そして委員の皆さんにはロータリーウィークの中で2つのロータリーデーと称した青少年奉仕事業をしていただきました。ロータリーデーの第1弾として「中央区少年親善野球大会 神戸東ロータリークラブ杯」を開催いたしました。当日は、晴天に恵まれた上、元阪神タイガースの濱中 治選手をお招きして、野球教室をしていただき、元プロ野球選手の技術指導ということで、子供達にも良い思い出になったことと思います。今回も、尾山会員には、試合前の準備体操から決勝戦のアンパイアまでお世話になりました。ロータリーデー第3弾は、「絵本作家永田萌さんと王子動物園で絵を描こう」を開催いたしました。この日も好天で、多数の応募者から選ばれた小学生以下 100 名の子供さんたちと父兄の皆さんで絵画教室を楽しんでいただきました。福原副委員長からは、動物を模ったボックスンのクッキーをいただき、子供たちも大喜びでした。また、神戸東ロータリークラブの活動紹介に加え、世界規模で取り組んでいます、ポリオ撲滅への募金のお願いもさせていただきました。今年度は、スタッフジャンパーも新しく作り、クラブ

が丸となって奉仕活動に取り組むことが出来ました。

長期計画委員会の野々村委員長と委員の皆様で、前年度から計画していたホームページを10 数年ぶりにリニューアルいたしました。岩野会員には製作を担当していただき、サーバーのサービスについては、山本（裕計）会員にご協力をいただきました。

次年度三役の道上会長、岩野副会長、鮑幹事には、本年度は、理事役員としてご協力をいただきました。今は、準備も整えて後はスタートを迎えるだけと思います。私も、次年度は直前会長兼 S.A.A.として協力していく所存でございます。

最後になりましたが、1 年間西村先生の美しい声を聞きながら、毎回例会をスタートさせていただき、橘さん、横田さんには、クラブの事務全般において、大変お世話になりました。また、ホテルオークラ神戸様にも多大なご協力を賜りました。次年度が、益々発展する良い年度となりますことを祈念申し上げまして、退任の挨拶とさせていただきます。





副会長
クラブ奉仕委員長 吉井正幸

2014～2015年度ロータリー年度、乙守会長、澤田幹事のもとで副会長、そしてクラブ奉仕委員長の役割を無事に終えることができました。これも会員の皆様のご支援ご協力の賜物で、先ずは厚く御礼を申し上げます。

今年度は、昨年の7月1日の最初の例会日から今年の6月30日の最終例会までの長丁場でしたが、クラブ奉仕委員会の委員長さんはじめ、会員の皆様に活発な委員会活動を支えて頂き、本当に有難うございました。

神戸ロータリークラブの副会長と話をしていた時に、過去の副会長はロースターにも掲載されず、すぐに忘れ去られる存在だと言っていました。私はそれこそ副会長のあるべき姿で良いのだと思いました。副会長が目立たなかったということはそのクラブが順調に運営されていたということだと思いますので・・・。

今年度、副会長として神戸東ロータリークラブの素晴らしい奉仕活動を見ていまして神戸東ロータリークラブについて改めて思ったことがありました。

それは、女子サッカーの世界カップで日

本代表の活躍もありましたが、地元神戸の女子サッカーチームINAC神戸レオネッサの代表も、いいチームをつくりあげるのには「いい選手」それを集めるには「いい環境」この二つだけではだめで「いい指導者」がいてこそ常勝軍団になり、この三つが必要であるといつも力説しています。

それをロータリークラブに当てはめると、いい会員を多く集める、それには、いいクラブ環境、それが「神戸東風」であると思います、そして最後のいい指導者、幸いにも我がクラブは伝統がありロータリーを良く理解していて、素晴らしい指導をして頂ける先輩方がたくさんおられます。この三つがあり我がクラブが素晴らしいロータリークラブになっているのだと確信しました。

これからもこの三つを大切に神戸東ロータリークラブが発展することを願い、乙守年度の活動に改めてお礼を申し上げ、道上年度のご活躍を祈念しまして退任の挨拶といたします。





幹事 澤田 正樹

昨年7月、幹事として仕事が始まって早々、横山 滋会員が急逝され、そのため第2例会が休会になりました。その第2例会の前日の月曜日に、お通夜、告別式の案内、休会の連絡など、慣れない時に、想定外の事態が発生し、会員の皆様に連絡取るのに事務局ともども大慌てでした。その後も、そのバタバタの流れを、心の中で引きずり、上半期は、各奉仕事業、家族旅行などが目白押しで、各委員会事業は、しっかり成功裏に完遂されましたが、私は、不慣れなまま、後ろから着いていくのがやっとでした。

一方、今年に入ってから下半期は、幹事職にも慣れ、各種事業もそこそこありましたが、バタバタせずに過ごすことができ、お蔭で、会員増強に力点を置くことができたように思われます。会員数は、会員増強委員会と会員選考職業分類委員会の活発な活動と相まって何とか、本日の新入会者をもって1名の増員となり、ほっと安堵しています。

先日、神戸3クラブの最後の役員親睦会で、神戸ロータリークラブの幹事の方に、神戸ロータリークラブの退会者についてお聞きしました。かのクラブでは、会社の転勤に伴う退入会

は別として、個人的理由の退会は、病気や物故者以外の退会はほとんどないということでした。しかし一方、当クラブでは、残念ですが、今年度も、3人の方が個人的な理由で退会されました。今回、幹事に就任するに際し、会長方針「希望を抱いて輝きを」ということで、強く輝くためには、親睦を深めて、会員相互の心のきずなをより固く強いものにしなければならないと思い、私自身、個々の会員の方々とのおふれあいの機会を増やすよう積極的に努めてきました。一人たりとも個人的な理由では、退会者を出さないと決意していたところでありました。しかし、残念ながら退会者を出すことになりました。まだまだ、私の人間力とクラブ組織への配慮の不足があったと深く反省しているところでもあります。ただ、幹事を経験させていただき、クラブのこと、ロータリーのことを少し理解できて良かったと感じています。失敗には目をつぶっていただき、また、自由気ままにさせていただいた、乙守会長、吉井副会長、および会員の皆様には、心から感謝申し上げたいと思います。この1年間有り難うございました。





春爛漫の4月14日に第61回創立記念例会・家族会を開催



今年も例年のごとく、春爛漫の4月14日に第61回創立記念例会・家族会がホテルオークラ神戸平安の間で開催されました。我が神戸東ロータリークラブは、昨年創立60周年を終え、今年は新たな気持ちをもって温故知新、未来へ向かう第一歩と言う位置づけで、従来 of 創立記念例会・家族会のスタイルを尊重して行われました。なお、今回はむつみ会の皆様にも例会からご参加頂き、例会の雰囲気を感じていただき懇親を深めていただきました。

通常の例会のあと、コーラス同好会の素晴らしい歌声で家族会が開幕いたしました。加藤昇治会員のご発声で、ホテルオークラの季節感満載の美味しい和食にあわせた、珍しい日本酒の

発泡酒での乾杯となりました。

途中では、恒例の皆出席会員の表彰と三原ご夫妻、今井ご夫妻の金婚式のお祝い、樋口会員と残念ながら欠席でしたが上村会員の銀婚式のお祝いをおこないました。今井会員のご挨拶ではお二人の馴れ初めからご披露いただき和やかな雰囲気になりました。楽しい時間はあっというまに過ぎてしまいました。乙守典厚会長からご提供頂きました特別ワインはもとより、美味しい料理、そして会員とご家族との楽しい会話をもって、大変楽しい創立記念を祝した家族懇親会でありました。

(家族委員長 多田 善計)





総数 300 余名で青陽東養護学校 招待ボウリング大会を盛大に開催



平成 27 年 1 月 16 日金曜日六甲ボウルにおいて神戸市立青陽東養護学校の生徒達を招いてボウリング大会を開催しました。別室で校長先生との懇談会を設けたのですが子供達の嬌声で話が全く聞こえず大声で話し合いを致しました。喜んでくれるのは嬉しい半面、意見の交換が進みずらく何か方法を考えねばと嬉しい悲鳴

をあげました。先生・生徒合わせて約 300 名と神戸東ロータリークラブのメンバー 16 名でボウリングを通じて人とのつながり、大勢の仲間と遊ぶことの楽しさを体感していただき盛況のうちに閉会致しました。

(社会奉仕委員長 吉田 茂)



生徒たちが心待ちにしている友生支援学校 招待ボウリング大会を開催



平成 27 年 2 月 20 日六甲ボウルで神戸市立友生支援学校と分校の高校 3 年生の生徒達 64 名を招待し、先生をいれますと 100 名弱の中ロータリークラブのメンバー 14 名とボウリング大会を開催致しました。こちらでも懇談会を開催いたしましたが友生支援学校が移転したため高校 3 年生の生徒達だけにもかかわらず子供

達の歓声で意見が聞こえないという事態が発生し普段ボウリングなど出来ない子供達の年に一回のボウリングの期待度、満足度の高さに感動し閉会致しました。

(社会奉仕委員長 吉田 茂)



ラウンドテーブル会 報告

ロータリー情報、そこまで言って委員会



乙守会長年度の当委員会の基本方針は「所属する集団としてのロータリー」の情報提供だけではなく、一人一人の会員が如何にロータリーを研究、利用、活用しレベルアップを図っていけるかを考える。また気軽な話題でホンネを語り合える場を設ける。」と言うことで、10月7日、1月27日、6月16日の三回にわたって、「ロータリー情報、そこまで言って委員会」と同じテーマで、同じ場所で、少人数のテーブルで開催し、参加会員それぞれのロータリー感を披

露していただいた。またそれぞれの職業に関して奥の深いお話を聴くことができました。同じ場所で開催をしたため、天安閣さんには、美味しい毎度違う料理を提供していただき、有難うございました。

ラウンドテーブル会を開催するに当たり、委員会も7月8日、11月18日、6月16日の三回行い活動の打ち合わせをいたしました。

(ロータリー情報委員長 森本 一裕)



森下 英樹

— キリンビールマーケティング神戸支社 —

現在は神戸市東灘区の六甲アイランドに住んでいます。縁があって2009年に居を構え、妻一人と、今年大学に入学した長男の3人で暮らしています。出身地は北陸石川県の白山市と言う金沢市に隣接した街です。金沢は新幹線開通でこれまでにない賑わいを見せていて郷土が連日のようにマスコミに取り上げられている事に喜びを感じています。

私は1962年(昭和37年)7月3日生まれで、現在52歳です。血液型はA型、星座は蟹座です。つきあいの浅い方からはO型?と聞かれる事がありますが古い友人からは典型的なA型の性格とよく言われます。

既に退官していますが自衛官の父と母、そして二つ上の兄の4人家族でした。父は自衛官という事もあり厳しく、母の名は道子で人に踏まれて頭を低くしなさいという意味で名付けられたそうですが、私にも謙虚さを忘れないように教えていました。

生まれ故郷は、田園地帯で私の実家は第二種兼業農家でしたので社会人になるまで稲刈り、田植えは私がしていました。海も近く、毎日漁師さんがその日獲れたお魚を売りに来ていたので大学生になり一人暮らしをするまでその日獲れた魚しか食べたことがありませんでした。何もない田舎ですが、私が最も好きな場所ですのでこれからも大切にしていきたいと思っています。

高校は石川県立金沢泉ヶ丘高校(旧制の金沢

第一中学校)で、大学は浪人を予定していましたが運よく同志社大学商学部に拾って頂きました。中学から大学の友人とは勤務地がどこであろうと定期的に交流を保っています。特に、GW、お盆に開催されるゴルフコンペを毎回楽しみにしています。

社会人としての経歴は1985年に生まれ故郷の石川県にある陶器メーカー、ニッコー(株)に入社し、東京で6年半、外食関係のお得意先様を相手に営業していました。TV番組でおなじみの料理の鉄人の一人である周富徳さんは重要な得意先で2回、香港へ同行視察させていただいたのが懐かしい思い出です。

ご縁がありキリンビールに1991年に入社しました。キリンビールを希望したのは商品力が強いメーカーで商品力以上に営業力を高めたいとの思いからでした。当時のキリンビールは業界のトップメーカーで強い商品力を持っていましたので商品でなく営業力で成果を創出できたと実感するには苦労がありましたが充実していました。

キリンビールでの最初の配属先は、神戸支社で前支社長の尾崎も私と同じ年に入社し同じ場所に配属されました。神戸で阪神・淡路大震災を経験し、その年の秋に鹿児島に異動、その後は福岡、新潟、青森と当社のシェアが低いエリアで営業をして参りました。

役職を離脱するまで5年を切りましたので、集大成として、将来のキリンを支えて頂けるメンバーの育成に集中して取り組んでいます。各地をまわった事で、地方の友人が増えましたし、住んでみてはじめてわかるエリアの資産を発見できました。神戸でも同様に新たな人的ネットワークを築き地域のコミュニティーの輪に入り込んでいきたいと思っています。

私が製造・販売に携わるお酒は、飲み方を誤ると、社会問題化している事件・事故に繋がる危険性があります。しかし、飲み方さえ誤らなければ人生の節目節目を演出するには欠かせない商品になります。キリンビールを身近に感じていただき多くの素晴らしい思い出を演出できるお手伝いができればと思っています。

ロータリアンとしてはまだまだ若輩ですが、奉仕の精神を大切に楽しみながら行動して参りますので引き続き宜しくお願い申し上げます。



富永利光

— 富永商事 —

まず初めに、由緒、伝統ある神戸東ロータリークラブに入会させていただきまして誠にありがとうございます。

私は昭和34年に淡路島の旧西淡町志知で、生まれました。小学校は西淡志知小学校、中学は御原（ミハラ）中学校、三原高校。その後、アメリカで四年半ほど遊んだ後、父親の経営する富永商事株式会社に入社しました。

富永商事株式会社は淡路島に本社があり、玉葱をはじめとする野菜の卸売商社です。40年前までは、国産の玉葱を中心として会社は成り立っていましたが、昭和59年に神戸支店を魚崎に開設した事により、今は輸入野菜中心に会社は成り立っています。

そこで、少し外国農業と国内農業の比較の話をして頂きます。よく、日本も大型農業に転換させなくてはいけないと言う話がありますが、これは今の日本では正しくありません。大型農業にさせると赤字が大型になるだけなのです。まずはコストの話なのですが、農業直接コストとして種、肥料、農薬とあります。今日本でメジャーの玉葱の種の価格ですがアメリカと比較しますと10倍です。この種は収量がいいので比較にはなりません、肥料価格は、2008年オイル価格が高騰した折、肥料価格が世界では二倍になりました。が、日本では40%アップでした。これは元の価格が250パーセントだったからです。その上日本式農業は外国農業の2.5倍肥料を使います。結果として余っ

た肥料が川に流れだし、川の藻が大発生とかなるのです。ですから肥料コストは6倍以上になります。農薬は、希釈倍率の問題が一番大きいのですが、外国での希釈倍率は150倍、日本は1000倍がメインです。これにより、水の量が7倍になり、水汲みの回数が7倍になります。これを話すと「そんな濃い農薬を散布していいのか？」と思われそうですが、いいのです。機械がよくなって、濃い農薬を薄く散布する技術が、今はあるのです。間接的には、トラクター。淡路島では34馬力が最高のトラクターです。アメリカでは野菜農業では500馬力です。これで、耕す人件費が15分の一になります。その他の農業機械もずっと進んでいます。これは、大型農業でなければいけません。

次は日本が大型農業になりにくい理由です。それは連作障害です。連作障害はふたつあり、一つは、同じ野菜を作り続けると同じ病気が増えてくること。もう一つは、土にその野菜に必要な成分が減ってくることです。その問題を一気に片づけているのが米作りなのです。コメを作る時、水を入れます。これが最初の問題、病気の大発生を抑止するのです。病気が溺れ死ぬのです。また稲が微量要素の供給元となり、もう一つの連作障害の抑止にもなります。これが非常に良いのですが、大型農業になれない理由です。考えてみてください。アメリカでは、今は42ヘクタールが、一枚の畑、言い換えると一辺6.5キロ、水が張れますか？水を入れてもいっぱいになりません。

日本の農業のいいところもあります。今世界では水が足りません。50年前は20~40メートルの井戸、35年前は200~400メートル、今は深いところは1000メートルの井戸、これは1000年前の水らしいです。今アメリカでの農業コストで一番大きいのは、水をくみ上げる電気代なのです。地形的に大陸の横の島国、雨が多いのが、日本なのです。たぶん200年もすれば日本の農業競争力は世界有数になっているでしょう、もしダムが残ってればですけど。

このような問題意識を持ち、これからも皆様の指導を頂きながら、ロータリー活動を頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。



池田 晋

— 三菱東京UFJ銀行三宮支店 —

先々月の3月に伝統ある神戸東ロータリークラブに入会させて頂き、早いもので2ヶ月が過ぎました。本日はこのような機会を頂き誠にありがとうございます。限られた時間の中ですが、自己紹介をさせていただきます。

1967年(昭和42年)、大阪府門真市に生まれました。門真市は京阪電鉄沿線で門真駅を中心に5駅、パナソニック、三洋電機のお膝元。ゆかりのある人物は「サラダ記念日」の作者で歌人の俵万智、元中日ドラゴンズの今中慎二さん、がいらっしゃいます。

また非常に少年野球が盛んな土地であったので地元の中学校を卒業後、大阪市都島区の大阪市立桜ノ宮高校/体育科に進学。大阪府高校野球連盟所属の硬式野球部に在籍。最高戦績は大阪府秋季大会3位、近畿大会に出場しましたが初戦で敗退しました。

その後、京都産業大学法学部に進学。関西6大学野球連盟所属の硬式野球部に在籍。リーグ優勝することなく4年間過ごしましたが、大学グラウンド近くの京都市北区上賀茂で下宿し学生生活を謳歌しました。(今でも地元大阪で高校の同級生と草野球を楽しんでいます)。

家族の話しをさせて頂くと、妻は元理容師(散髪屋)で高校の同級生。残念ながら順調に横に成長し・・・でございます。長男は群馬県の

高崎健康福祉大学高崎高校、硬式野球部に今春まで所属。最終学年の昨夏は背番号13番、控え投手で甲子園に出場し全国ベスト8まで勝ち上がりました。4月から東京の大学へ進学し、硬式野球を続けております。長女は地元の大阪市立高校に通いバレーボール部に所属、高校2年生。以上妻を除きスポーツ一家です。

自宅は大阪市都島区、大阪環状線京橋駅の近くです。サウナで有名なグランシャトーから徒歩8分です。妻の実家が同所近隣であったため、流れて現住所に居を構えました。

職歴は平成2年に三和銀行の伊丹支店に入行し、主に関西勤務。三重県の津、東京新橋では単身赴任を経験し銀行員生活も25年目となりました。年初の異動で三宮支店勤務となり、神戸での勤務は(今回は震災を境に前後1年半)は2回目、1995年以来20年振りとなります。前勤務は震災前後の勤務で通常勤務以外に店舗の移転・現三宮支店との協働営業等を経験しました。

今回は支店長という立場で着任したこともあり、何とか神戸地区の発展に貢献したいと考えており、大先輩方のご指導を頂きたいと考えております、簡単ではございますが今後共よろしくお願い致します。





河崎 光

— カワサキ商事 —

はじめまして、河崎光と申します。この度は、伝統と格式ある神戸東ロータリークラブに入会させて頂き、このような自己紹介の機会まで頂戴致しまして、誠にありがとうございます。また、紹介者である梅田様、土城様、そして、入会を勧めて頂きました上村様に深く感謝申し上げます。

私は昭和41年1月5日、神戸で生まれました。現在49歳の独身です。本籍地は父の実家がございます兵庫区の祇園さんに近い平野（ひらの）の辺りです。その後、長田区や北区で子供時代を過ごし、京都でも学生時代を過ごしました。今は長田区に居ります。

私の名前の事について少し触れたいと思います。私の下の名前は「光」といいますが、子供心にもちょっと珍しい名前だな～と思っておりました。親も色々と考えて、なんらかの想いや意味が込められているのかな～と思い、いつの日か父親に質問しましたところ、私が生まれる数年前にちょうど東海道新幹線が開通したところだったということで、「超特急「ひかり号」をちょっと拝借しただけや。流行りやっただから・・・」との返事でした。まあ、なんと適当な名づけ方かと拍子抜けしたのを覚えております。しかしながら、たかが名前、されど名前、この名前が案外これまでの人生に影響してきたように思います。この「光」という、良く目立

つシンプルな名前のおかげで、子供の頃から「光ちゃん」、「ヒカル」、「ひかる君」と、周りの皆からスグに覚えてもらえ、仲よくしてもらい易かったという点は父親の目論み？に感謝したいと思います。ただ同時に、先生にも目を付けられやすいとか、失敗しても目立ってしまうなどマイナス面も多々ございます。どちらにしましても、ひっそり大人しく過ごしたくても、少しそれが難しい人生になったかもしれません。

つぎに、仕事についてですが、私はカワサキ商事株式会社という会社の代表をさせて頂いております。現在、会社は40期を越え、私が二代目で、社長となってから5年程になります。仕事の内容ですがパッケージの企画、販売を行う会社です。パッケージとはどういう物かといえますと、例えば百貨店で菓子折りを買われますと、まず、紙の手提げ袋を手渡されます。そして、その中には包装紙に包まれた化粧箱が有り、その裏に一括表示シールが貼られている場合もあるでしょう。そして、その箱を開けますとフィルムの個包装に包まれた焼き菓子等が収まっていると思います。それらの手提げ袋、包装紙、化粧箱、シール、個包装、それらすべてが私どもの扱うパッケージです。実際の仕事の内容はといえますと、例えば食品会社の方から新商品のご相談を頂きますと、その商品の特徴から、ターゲット、販売ルート、品質保持面、包装工程の簡便化などについてお客様と話し合いながら、時には商品自体の企画から、ネーミングやデザイン、品質保持等を考慮した材質や形状の選定などを行っていき、パッケージの製造手配、納入までを行う仕事です。勿論、既に規格、デザインが決まった物をお作りしたり、既成品をお売りする場合も多々ございます。

私の「光」という名前も、いうなれば父親によるネーミングであり、このネーミングひとつがどういう影響をもたらすのか、という事を私自身が体感している最中でもあるわけです。今後、皆様から下の名前で気安く呼んで頂けるような存在になれば幸いです。何卒宜しくお願い申し上げます。



小谷 哲也

— コタニ —

コタニ株式会社の小谷でございます。この度、土城様と梅田様のご紹介で、この伝統ある神戸東ロータリークラブに入会させて頂く事になりました。ありがとうございます。また本日はこのように自己紹介のお時間を頂戴いたしましたので、私の略歴や仕事の事をお話しさせて頂きたいと思っております

私は、1965年、昭和36年に大阪府豊中市に生まれました。その後大学を卒業するまでの23年間豊中で過ごしました。地元豊中の小学校、中学校を出たあと、当時私がいた中学からは過去に数人も行かなかった、大阪の新大阪駅近くにあり大阪府立東淀川高校に進学しました。

その高校には、高校では珍しくアメリカンフットボール部がありましたので、興味本位で入部いたしました。まだ創部3年目であったこともあり部員が少なく3年生が春に引退してしまうと、1・2年生で11名しかいなくなりました。今では参加できないのですが、この頃は規制が緩く試合にも参加していましたが、当然勝てない状態でした。しかし、参加高校も少ないこともあり、私が3年生になった春の大会では、大阪府で準優勝し、関西大会に進みBEST 4になりました。そこで学んだことは、コーチングの大切さでした。ボランティアで、

関学と桜美林大学の方がコーチングしてくださり、そのおかげで結果を残すことができました。

その後甲南大学に進学し、迷わずアメリカンフットボール部に入部しました。甲南大学は創部1955年と関西でも歴史の有るクラブでしたが、当時は2部に低迷している暗黒の時代でした。高校の自由な雰囲気とは全く違い、同じスポーツかと思うほど前近代的な物でした。アメリカンフットボールは戦略、戦術のスポーツで、これがすべてといっても過言ではありません。残念ながら大学時代は1部昇格を果たせずに終わってしまいました。

4年生の時に大学のゼミの先生より、「小谷、今年は証券会社が体育会の学生がほしいらしいぞ」と進められ、内定を頂けたのですが、大日日本電線工業（現在の三菱電線工業）に就職しました。それは、コタニ株式会社が代理店をしているからでもありました。しかし、就職してすぐにバブルの波が来たので、その先生の先見の目を尊敬もしました。

その大日日本電線工業入社後は、配属が東京の営業になり、初めて関西を離れることになりました。しかしこの時の経験がよかったと思っています。それは、大東京を若いときに自分自身で見たり、様々な体験ができたことです。関西より大きな街があるのだと思い、自分自身の視野もすごく広がったと思っています。今でも東京に出張に行く度に街の変化の早さに驚かされます。その後4年間つとめ、父が創業した会社に帰ってきました。大企業からいきなり零細企業に帰ってきたので、当初はいろいろなことで戸惑うことも多く、よく父とも衝突しました。

ここで私どもの会社紹介をさせて頂きたいと思っております。コタニ株式会社は、創業昭和36年のシール製品の専門商社です。シール製品とは、パッキンとも言われ、身近なところでは水道の配管等に使用されています。普段は目に触れないのですが、漏れを防ぐという役割を担っております。また非常にニッチな業界でもありま



す。そのシール製品を国内のメーカー様と、海外の英国とスロベニアという国から輸入しております。

スロベニアという国は、1990年に旧ユーゴスラビアから分離独立した人口200万人の非常に小さな国ですがEUにも加盟しているほどの先進国であり、非常に治安のよい綺麗な国であります。近年はクロアチアとスロベニアの旅行ツアーが人気であるときいております。

しかしニッチであったシール業界も、現在のご多分にもれず輸入品等の参入で、価格競争が激化してきております。また円安も重なり輸入価格も上がってきているのが現状です。その中で生き残っていくためには、人的資源への投資しかないと考えて、3年前より50年の歴史で初めて新卒学生の採用を始めました。元々が全社員で15名以下の少ない人数ですので、この3年間で全社員の約半分が3年以下の新卒社員になりました。来年も採用にチャレンジすべく採用活動を始めておりますが、中小企業にとっては非常に厳しい採用活動になりそうですが、次の50年へ向けてとがんばっていきたいと考えております。

最後になりますが、この度ロータリーの入会させて頂くことになりましたのを機に、微力ではありますが、何か社会貢献できればと考えております。今後ともよろしくご指導のほどお願い申し上げます。



脅威的なスピードで成長を続けている — 井元会員のバリュープランニングを職場訪問 —



5月26日の職場訪問には47名もの方々に
ご参加頂き有難うございました。

バリュープランニングさんにバスで到着する
と、明るく元気なスタッフの方々にお出迎えを
頂きました。

乙守会長のご挨拶の後、井元社長から会社の
歴史、ヴィジョン、今後の展開方針等について、
お話を伺いました。神戸の震災の前年、1994
年に創業され、20年で国内200店舗を超え、海
外にも進出という、驚異的なスピードで成長を
続けておられます。経営計画は18年を1スパ
ンとしてその18年を3つに分け6年を1ス
テージとしているとの事です。普通3年もし
くは5年計画というのが、一般的だと思うので

すが、18年は井元社長の大好きなゴルフ、つま
り18ホールに由来しているのです。

この後、3班に別れておもてなし研究所、美
脚研究所、今秋完成予定のCS研究所及び本社
を見学させて頂きました。女性用だけでは無
く、男性用もセンター街ジュンク堂さんの入っ
ているビルの1階にあるので、是非お試し下
さい。

総括として、大変若々しく元気で、女性が溼
刺としている職場でした。その社員の方々が社
長を尊敬し、愛しておられるのを見て、清々し
い気持ちにさせて頂きました。井元社長、社員
の皆さん有難うございました。

(職業奉仕委員長 横山 公一)



第20回全日本ロータリークラブ親睦合唱祭



平成27年6月6日(土)に開催された「第20回全日本ロータリークラブ親睦合唱祭」に参加してきました。

今年は、函館RCの主催で、同クラブの創立80周年記念行事の一つとして開催され、「函館市民会館大ホール」にて12時に開演され、総参加合唱団29チーム、総人数600名超の演奏が、予定通り17時45分に終了し、引き続いて懇親会が「函館国際ホテル 鳳凰の間」にて18時30分より開催されました。

当クラブ合唱団は、開演後17番目に、男声7名、女声16名により、「遠い世界に」、「世界に一つだけの花」の2曲を演奏しました。当日に函館入りするメンバーは、場立練習に間に合うように、かなり忙しい移動となりましたが、なんとか間に合い、全員での場立練習で会場の雰囲気を確認でき、更に本番前の直前練習も回数、時間も十分にできたため、本番は殆どノーミスの演奏を行うことができ、立ち位置を直前の練習会の最後で急遽変更した効果もあって、ご講評いただいた先生から男声パートが褒められるという、当クラブ合唱団で初めての出来事が起こりました。(ご講評いただいた先生の講評内容を下記に記載しています)

達成感に満ちた中、意気揚々と参加した懇親会では、6月に解禁されたばかりの生きの良いイカを始め函館の各種海鮮物とお酒を堪能し、他クラブの合唱チームの余興に飛び入り参加す

る者も多々あり、例年の通り、大いに楽しみました。

なお、当日の代表者会議で、来年の第21回合唱祭は別府RCの主催で、5月28日(土)の開催と決まりましたので、来年は「関サバ」と「別府八湯」を楽しみに合唱の練習に励もうと思います。

(コーラス同好会世話人 榊原 志朗)

佐々木 茂先生(北海道教育大学名誉教授)のご講評: やわらかな発声が成功しています。男声パートの響きが美しくダイナミック。特にPP(注: ピアニッシモ)や休止など多様な変化をつけた編曲がすばらしいと思います。SMAPのシンクペーションリズム(注: 裏拍にアクセントをつけるリズムのこと)が歌えるか心配していましたが、見事に(余裕で)クリアしておられました。心を一つにした歌いぶりに感動です。心のアンサンブル(注: 調和)が素晴らしい!

大村 義美先生(函館MB混声合唱団常任指揮者)のご講評: ソフトな声で安心して聞くことができました。合唱の喜びを聞いている人たちにも与えられる力のある合唱団です。デュナーミク(注: 強弱表現)も適正で、聞き易いのが一番です。2曲目ではP(注: ピアノ)の部分の言葉が若干不明瞭になりましたので、子音を立てる(注: 子音をしっかりと発声する)よう練習してください。(それで万歳です。)

転記者: 榊原志朗(注の部分を追記しました)



神戸東ロータリークラブ（を知っていただく）交流会



クラブ外の方々に、神戸東RCの良い“神戸東風”を感じていただき、神戸東ロータリークラブへの理解を深めていただくとともに、入会しやすい雰囲気を作り出すために、飲食しながら談笑する交流会が開催されました。

6月2日（火）に、石本会員にお世話いただき、三宮ターミナルホテル4F会議室で19時から第1部開始、レストランで19時45分から第2部開始、21時半に終了しました。参加者は会員以外の、男性7人、女性7人で併せて14人と神戸東RC会員17人の総勢31人の参加でした。

第1部では、ロータリークラブを知っていた

だくための話題提供コーナーを開催しました。

1：ロータリークラブの概略（澤田幹事）、2：バリュープランニングの考え方にみるロータリーの精神（井元会員）、3：神戸東ロータリークラブの各種活動、フランスブルゴーニュのワインの騎士団叙任式珍道中について（乙守会長）

第2部は懇親会で、食事をいただき、乙守会長提供のワインを傾けながら、多いにお互い懇親を深めました。

功あってか、その後、お二人が入会を希望されました。

（幹事 澤田正樹、会員増強委員長 梅田 稔）

美味しい料理とお酒で本年度最後の親睦会を締めくくりました



本年度第2回親睦会は年度最終日となる6月30日に中華料理「天安閣」で事務局、米山奨学生を含め総勢69名の参加でにぎやかに開催致しました。

鮑会員の心配りで「ふかひれの刺身」をはじめ美味しい料理と美味しい甕入りの紹興酒、また、今井会員に選んでいただいた白ワインと乙守会長がブルゴーニュのオークションで競り落とした素晴らしい赤ワインをたっぷりいただきました。

料理とお酒が進むにつれて、皆さんのおしゃべりも徐々にヒートアップ、当初、委員会毎に

座っていたメンバーも、いつのまにか、あちこちのテーブルに出かけて盛り上がり、楽しいおしゃべりが続いてあっという間の2時間でした。

最後は吉井副会長の中締めで、本年度最後の親睦会を締めくくっていただきました。

この1年間、受付とゲスト紹介、そして2回の親睦会を担当させていただきましたが、委員会の皆様と会員の皆様のご協力で、何とか無事終えることが出来ました。この紙面をお借りして御礼申し上げます。本当に有難うございました。
(親睦活動委員長 山崎 仁嗣)





不妊治療最前線

塩谷雅英 会員

1. 生殖医療におけるパラダイムシフト

2010年のノーベル医学生理学賞は、iPS細胞の山中伸哉教授に、という大方の予想を裏切って、「体外受精の父」であるロバートエドワード博士に授与されました。エドワード博士は1978年に世界初の体外受精児、ルイズブラウン嬢の誕生に貢献しました。スウェーデンのカロリンスカ研究所はこの業績を不妊治療における「パラダイムシフト」と評価しました。ちなみに「パラダイムシフト」とは「その時代や分野において当然のことと考えられていた認識や思想、社会全体の価値観などが革命的にもしくは劇的に変化すること」です。生殖医療において体外受精はまさに「パラダイムシフト」でした。それ以来すでに世界中で400万人以上のベビーが体外受精で生まれています。また、体外受精でなければ妊娠できない世界中の



ルイズブラウンちゃんとエドワード博士

何百万という不妊カップルに恩恵を与える事になりました。

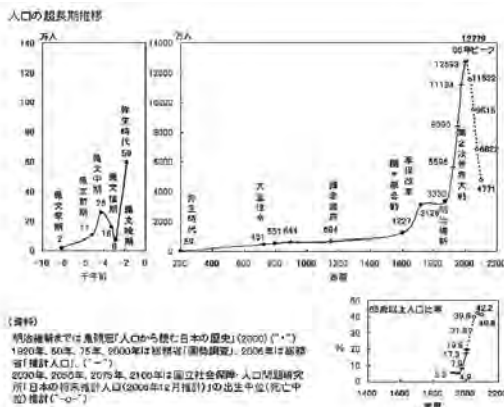
しかし、今日に至るまでの道のりはエドワード博士にとって決して平坦ではありませんでした。マスコミや宗教界、政府、科学者からのバッシングは並大抵ではなく、資金繰りにも苦勞が絶えませんでした。普通の精神力ではこれらの苦難に耐える事ができ無かったでしょう。そのような中で研究を続け成果を出したエドワード博士はやはり高く評価されてしかるべき人物と言えるでしょう。



ルイズブラウンちゃんと母親

現在、我が国には、日本産婦人科学会に登録している「体外受精実施施設」は600件を越えています。そして、毎年10万周期以上の治療が行われており、その結果毎年3万人以上の体外受精児が生まれています。27人に1人の赤ちゃんは体外受精によって生まれているのです。一方、我が国は少子高齢化の危機にさらされています。100年後の我が国の人口は5000万人を割り込み、明治維新の頃の人口に逆戻りするものと予想されています。日本人が今の半分以下になります。高齢化も進み、少ない若者が多くのお年寄りを支える時代がやってきます。このような時代にあって体外受精は少子高齢化の進行に歯止めをかける技術の一つといえるでしょう。

厚生労働省は、子ども、子育て支援の一環として、体外受精治療を受ける人々の経済的負担を軽減するために、特定不妊治療費助成事業を行っています。この制度では、体外受精を受け



我が国の人口の推移

る方を対象に、初年度 45 万円を限度に、2 年目からは 30 万円を限度に治療費用が助成されます (所得制限あり)。

2. 生殖医療における第2のパラダイムシフト

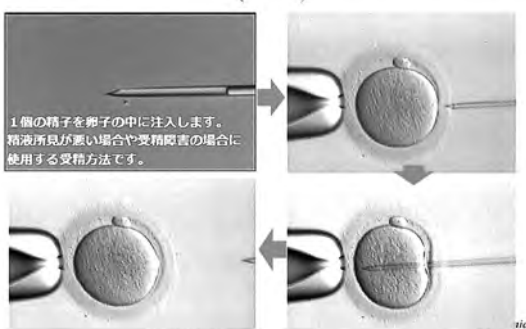
体外受精では、精子と卵子を体外で受精させ、受精卵を子宮に移植します。この技術は、前述のごとく不妊で悩む多くのカップルに福音をもたらしました。そして1983年には、東北大学で我が国初の体外受精児が誕生しました。

このニュースは医学部の5年に在籍し、将来の進む方向についてあれやこれやと悩んでいた私にとって衝撃的で、アポロ13号が月面着陸をした時のニュースを思い出すくらいでした。そして、それまでは内科か外科に進もうと心に決めていた私が産婦人科を選んだ理由の一つとなりました。そのような関係もあり、卒業後に進んだ京都大学医学部の研究室では、生殖医療を研究テーマに選び、マウスを使って体外受精の技術革新を試行錯誤するとともに、1988年

頃から体外受精による患者さんの治療にも携わりました。

当時は既に、京都大学でも体外受精児は何人も誕生しており、治療技術は概ね確立していました。しかし、どうしても体外受精の限界を感じる患者さんも少なくありませんでした。それは、「重症の男性不妊症」です。当時の体外受精の技術では、乏精子症(精子濃度が低い)や精子無力症(精子の運動が低下している)の患者さんでは、体外で卵子に精子を受精させることが困難だったのです。1988年当時、我々は「男性不妊はどうしようもない」と考えていたのです。ところが、1991年、再び衝撃的なニュースが飛び込んできました。1個の精子を細いガラス針で卵子の中に直接注入する技術、すなわち「卵細胞質内精子注入法(ICSI)」によって健康な児が産まれた、というニュースです。卵子にガラスの針を突き刺すこの技術、そして、何万、何百万の精子の中から一つの精子を人間が選んで卵子に注入するこの技術の登場は、「生殖医療における第2のパラダイムシフト」と呼ぶにふさわしいものです。

当初は賛否両論があり、一つの精子を医療関係者が選ぶことに戸惑いもありました。しかし、今では、この「卵細胞質内精子注入法」は広く行われるようになり、我が国でも毎年5万件以上の治療が行われています。1988年当時、「重症の男性不妊」は手のうちようが無いとあきらめていたことを振り返ると隔世の感があります。今では、男性不妊治療は克服された、とさえ考えられつつあります。精子が1個でも見つければ妊娠の可能性を期待できる時代となりました。



顕微受精 (ICSI) の様子



相続見聞録

白田 勉 会員

私が以前勤めていた保険会社で、法人向けの節税プランを売っていた時が有ります。その頃、国税の資産税の統括官と知り合いになりました。その方から、「あなたは、一生懸命法人の節税を勧めている積りかもしれませんが、我々は相続税で最後にごっぼり頂きますから気にしていません。」と言われました。

確かに、法人税は儲かった時に掛かる税金ですが、相続税は、その時儲かっていようがいますが、持って行かれる税金です。法人税が払えなくて潰れた会社は聞きますが、相続税が払えずに潰れた会社は沢山あります。

相続対策は、3つのパートに分かれます。

1. 争族対策 (遺産分割対策)
2. 納税資金の確保 (納税財源対策)
3. 相続「税」対策 (節税＝課税価格の引き下げ)

私の所に来られるご相談は、相続税対策が殆どです。先日、ある高名な税理士さんと地主さんの相続相談を受けました。その方は、現在だと相続税が約3億円掛かります。その税理士さんが不動産に収益物件を建ててとか保険を使って3千万まで相続税を圧縮するスキームを紹介しました。

一緒に話を聞いていた長男の顔色が冴えませんが、訳を聞くと、最近疎遠になっている弟が2人居るとの事。このスキームは、争族対策的に見るとアンバランスです。「このスキームで、弟達にどうやって判を押させたらよいのでしょうか？」長男の問いに、税理士さんの答えは衝撃

的でした。「そんな事は知りません！私は税の専門家で、3億の税金を3千万まで下げて文句を言われる筋はありません！」私はこの税理士さんが大好きになりました。(笑い)

確かに税理士さんは税の専門家で、どうやって判を押してもらうかなどの事は、我々に任せて頂きたいと思いましたが、でも、やっぱり相族は難しいですね。手段を選ばずテクニカルだけなら、例え100億の相続税でもゼロにする自信があります。でも現実には不可能です。

例えば、配偶者控除で相続財産の半分か、1億6千万まで非課税になるのはご存じだと思いますが、自動的になる訳ではありません。相続開始から10か月以内に、全相続人が遺産分割協議書に実印を押して税務署に提出して署長がOKして初めて効力を発生します。つまり、どんな素晴らしい節税プランも相続人全員の判を貰えなければ、絵に描いた餅です。ですからプロに成れば成程ここを重要視します。

次に納税対策です。相続税の納税は、何が有っても10か月以内に現金納付が基本です。よく延納が出来るでしょ！とか物納ができるでしょ！と仰る方がいらっしゃいますが、物納なんか認められないですよ。例えば、親が亡くなって相続したのは1億円の100坪の土地だけでした。相続税を2千万と仮定すると、20坪だけ物納して残り80坪をどうしようか？と思うでしょ。でもこれダメなんです。自分の持つ資産から払わないといけないんです。これは、老後の為に貯めたお金だと言ってもダメです。今後3か月の生活費以外は、全て出さない。と言われます。それでも足りない場合、初めて物納の話になります。ですから、相続に詳しい税理士さんと同行すると話が速いです。「相続税は3千万位掛かりますが、保険に入ってますか？」「預金じゃだめですか？」「だめです。」預金は相続人全員の判が揃わないと払い出しできません。納入期限が来て、「預金はあるんだがまだ三男が判を押してないので、もう少し待ってもらえませんか？」と言って税務署に待ってもらった人はいません。ですから、相続人が複数いる場合の納税資金対策には、分割協議の対象にならない生命保険が一番です。



「司法書士事務所 あ・ら・かると」

—平成 24 年 9 月 25 日の卓話、

N さんのその後—

吉田 博 会員

平成 24 年 9 月 25 日に、大澤様のご推挙で卓話をさせていただきました。その時のテーマは「無縁社会と成年後見制度」でございました。無縁社会という言葉は、大きな反響を呼んだ「NHKスペシャル」で、タイトルとして使用されました。この番組のスタッフや無縁社会の研究者によれば、無縁社会の特徴は、①血縁が無くなる、②地縁が無くなる、③社縁が無くなる、であり、その結果、例えば、消費者被害により家計を脅かす。オレオレ詐欺が増加してくる。又、高齢者の健康問題が大きな社会問題となってきます。主な原因は、①生涯雇用制度の崩壊、②長時間勤務、③経済不況、④核家族化、⑤地域コミュニティの崩壊、などと論じられています。

そして、私は、このような無縁社会の弊害を除去する一つの法律制度として、成年後見制度を紹介させていただき、現に私が成年後見人として担当している元南海ホークスのピッチャーの N さんの事例を紹介させていただきました。成年後見人としては守秘義務があって個人情報を漏らしてはいけないことになっておりますので、かなり気を使ってお話をしたつもりでしたが、世の中は広いようで、狭いもので、卓話終

了後に、ある方から、N さんとは〇〇さんのことと違いますか？と声をかけられました。「え！ドッキリ」とびっくり致しました。従いまして、今日は A さんらの事例をも含めて、N さんのその後の事例としてご紹介させていただきます。

その後、N さんは判断能力がさらに低下して、時系列の判断が出来なくなり、施設を訪れた私との会話のキャッチボールが出来なくなってまいりました。唯一親族の方で協力的だったのが、東京在住の弟さんでしたが、昨年末にこんな寒い日本は厭だと、マレーシアへ長期ステイに行ってしまった。勿論、メール等を使って連絡はとれるようにはなっております。

N さんに関しては悪いことばかりではありません。消えた年金が返ってきました。南海ホークスを首になってから酒屋や不動産業をするまでの約 14 年間の就業履歴が不明でした。勤務先の住所、名称、会社の目的の三つを明確にして、消えた年金を請求することになっておりますが、認知症が進んだ方に尋ねても三つの要件を整えることが出来ません。何度も N さんに聞き尋ねて、三宮駅の南の方の会社で働いたことがあると思い出してもらい、年金相談センターを通じて繰り返し請求したところ、3つの要件を緩和してくれました。年金の時効に関しましては特別立法で時効の成立を排除しておりますので、昨年 100 万円ほどの消えた年金の支払いがありました。お陰さまで、施設利用料を安心して支払うことが出来るようになりました。ちなみに、消えた年金対策としては、次のような事例があります。日本年金機構によれば全国で約 9 人に 1 人、不明だった年金記録が見つかっています。①若い頃に勤めていた記録が見つかって年間 98 万円が 234 万円に ②結婚前の旧姓の記録が見つかって年額 43 万円から 154 万円に ③名前の読み方が誤って登録されていた記録が見つかって年間 0 円から 137 万円になった等の事例があります。私の事務所の事例で、消えた遺族年金の 655 万円が支払われた



ケースがあり、今までの最高額です。

その後、Nさんに下血があり大腸がんの疑いがあり精密検査を受け入院し手術を受けることになりました。現在、後見業務を遂行するのに一番困っておりますのが、医療行為の同意の問題です。Nさんは手術を受けることになって、病院から手術の同意を求められています。現在法律上成年後見人に同意権は認められていません。にもかかわらず、病院からは同意なしに手術は出来ませんよと言われており、困惑しているところです。

そもそも手術の同意は必要なのでしょうか？その法的な根拠はあるのでしょうか？法律上の明確な義務規定は医療法等にありません。しかしながら、世界の先進諸国のルールとして確立されており、日本医師会もこれを受け入れております。私個人の検査入院の際に、医療行為の構造について考えてみましたところ、医療行為（医師の医療を受けること）を分析してみますと、契約→インフォームド・コンセント→治療となります。

成年後見業務に当てはめてみると、

- ①医療契約（診療契約）における支援…契約締結における関与
- ②契約の履行過程における支援…インフォームド・コンセントにおける関与

①については、多くの成年後見人が入院契約代理を経験しており法律上も根拠があります。②はどうでしょうか？Nさんは判断能力が減退し続けています。医師の説明を聞いても理解しにくいでしょうし、同意することも困難です。成年後見人が本人に代わって説明を聞くことは出来ませんが、同意はできません。Nさんの場合には、マレーシアの弟さんにメールで同意書を送って、メールで送り返してもらおうと考えております。しかし、弟さんは本人でないので、この方法で良いのかどうかまだ病院の了解は取っておりません。現在の後見業務の一番の難儀な課題です。





▲2月10日「徒然草風 三宮駅周辺再整備考」
石本一生 会員



▲3月3日「神戸市須磨区とアメリカ合衆国南西部の環境生物保全の現状」
須磨ふるさと生きものサポーター代表 山本勝也 氏



▲2月17日「RYLA セミナーとRYLA 学会会について」
広報委員長 奥田 裕 氏
企画委員長 坂本 龍太郎 氏



▲3月17日「桂福團治様 落語」(むつみ会新春会)
四代目 桂 福團治 様



▲2月24日「オペラの世界」
井上敏典 氏



▲4月7日「女性の輝く街、神戸」
田嶋株式会社 取締役社長 伊藤紀美子 氏



▲ 4月28日「この10年で激変した兵庫の森と動物」
一般社団法人日本熊森協会 会長 森山まり子氏



▲ 6月9日「バリアバリューが日本の未来を創る！」
～ユニバーサルデザインが生み出す4,000万人の市場と経済性～
㈱ミライロ 代表取締役社長 垣内俊哉氏



▲ 5月19日「この木なんの木 日立の木」
中田勝彦 会員



▲ 6月16日「宝塚歌劇コレクション秘話」
作家・日本フットサルリーグ アンバサダー 草葉達也氏



▲ 5月26日「株式市場の相場展望」
貝沼信行 会員



▲ 6月23日「ロータリー平和センターとウクライナ平和活動の経験」
ロータリー平和センター（国際基督教大学）平和フェロー アンナ スラヴィンスカヤ氏



余韻会 (俳句同好会)

平成二十七年二月二十七日 於 西村屋 花みかげ

蛇穴を出て人の世の風に向く

本郷 桂子

穴を出て蛇ゆく先を憂ふなし

執行 執艸

おづおづと蛇穴を出づ我もまた

高石 潜菴

蛇穴を出づ万物も出る力

白羽 子誠

海苔粗朶の微動だにせず海丸し

壺井 仙岳

鐘つかれ蛇穴を出づ寺領かな

吉井 聖倅

薄氷の幾何学模様探しをり

松原 氣宏

岩海苔の波とをどるや瀬戸の海

池西 清栄

春宵や芝居の果てし紙吹雪

橘 恵子

余韻会 (俳句同好会)

平成二十七年三月二十六日 於 西村屋 花みかげ

昼月や剪定の切り口白し

本郷 桂子

剪定の庭師二人にリズムあり

執行 執艸

剪定や風と光を誘ひ入れ

高石 潜菴

藪椿枯山水に紅一点

白羽 子誠

覺束ぬ手で剪定の斑かな

壺井 仙岳

剪定や脚立の揺れて空の揺れ

吉井 聖倅

風止みて何事もなく剪定す

松原 氣宏

庭先に剪定の音かるやかに

池西 清栄



余韻会 (俳句同好会)

平成二十七年五月二十七日 於 西村屋 花みかげ

白がちに活けて夏めく一壺かな	本郷 桂子
白き身の葉に余りたる柏餅	執行 執艸
西日濃し優先席の正面に	高石 潜菴
今日もまた汗を拭き拭き庭手入	白羽 子誠
夏めきて袖の長さを恨みをり	壺井 仙岳
ふる里のぬくもり宿す柏餅	吉井 聖倅
めぐり合ふ日々の輝き夏来たる	松原 氣宏
庭仕事土の香りの夏めきて	池西 清栄
軒下を夏めく風が通り過ぎ	神品 平
人の世の不思議に似たり粽解く	橘 恵子

余韻会 (俳句同好会)

平成二十七年六月二十五日 於 西村屋 花みかげ

風入れて家軽くなる五月晴	本郷 桂子
短夜や一灯還る海の上	執行 執艸
身を溶かすなめくち自由か不自由か	高石 潜菴
なめくちの双眼たてて眺めをり	白羽 子誠
短夜に目覚めて時計進まざる	壺井 仙岳
坂道の紫陽花の色あざやかに	松谷 泰山
蛞蝓のどこから来るやどこへ行く	吉井 聖倅
わがままな明日への期待鰻買ふ	松原 氣宏
なめくちの光る足あと姿なき	池西 清栄
急ぎつつ休みつつゆくなめくちら	神品 平
蛞蝓ぎらりと跡を残したり	橘 恵子
思ひ出の尽きぬ知床明易し	村野 離翔
森の朝はやかつこうの鳴きにけり	飯田 美音



「東洋のナイアガラの滝」

写真と文 宮 昭久

大分県豊後大野市「東洋のナイアガラ」原尻の滝
幅120m 高さ20m
その滝壺に吸い込まれる清流を写真に収めました。
(自分自身も滝壺に呑み込まれてしまいそうになりながらの1枚です。)



CONTENTS

3 役退任挨拶	1
創立記念例会・家族会	7
青陽東養護学校・友生支援学校招待ボウリング大会	9
ラウンドテーブル会報告	11
新入会員自己紹介	12
職場訪問(バリュープランニング)	18
親睦合唱祭	19
神戸東 RC(を知っていただく)交流会報告	20
第2回親睦会	21
会員寄稿	23
例会スナップ	28
余韻会	30

編集後記

早いもので会長テーマの、希望を抱いて輝いた乙守年度の最終の会報をお届け致します。

業務能力の乏しい委員長の私に代わり雑誌会報の委員の皆様、そして神戸東ロータリークラブ会員の皆様には記事、原稿、写真、絵画、俳句すべてにおいての依頼に快く応え、またご協力を頂きましたこと、この1年間心より、感謝申し上げます。

出来るだけ写真のスペースを広げて皆様の輝いた素晴らしい笑顔とともに1年を締めくりたいと思います。

雑誌会報委員長 田中 義明